

「うばわれた夏の景色」

和歌山県 白浜町立西富田小学校 6年 ひろはた もとき 広畑 心基

「お母さん、あれ見て。」

ぼくは、車の窓から見た、すさまじい光景に目がくぎづけになりました。それは、毎年夏休みに、中辺路町栗栖川の、「熊野の郷 古道ヶ丘」で行われる空手の合宿に参加する時の事でした。例年のように富田川から、川沿いの道を通り向かっている時、ぼくの目に信じられない、とらより、信じたくないような光景が飛び込んできたのです。

光を浴びてキラキラと輝き、サラサラと冷たそうな水が流れる川原で、毎年、たくさんの親子連れや、グループが泳いだり、キャンプをしたりしていました。ぼくは、「気持ち良さそうやなあ。泳ぎたいなあ。」とうらやましく思いながら、これから行われる地ごくのような合宿に、少しゆううつな気分になったものでした。それが今年、深い緑色の山が突然割れ、木々は無くなり、茶色の地面が見た事もないほどの大きな岩やたくさんの石と共に、むき出しになっていました。いつも通っていたはずの道は無くなり、くねくねとした回路が作られていました。これは、二年前にこの地方をおそった台風12号による被害でした。

2011年9月2日。夏休みが終わったばかりの和歌山県に、台風12号は大雨と共におそいかかり、多大な被害のつめ後を残しました。ぼくの住む白浜町でも、床上しん水などの被害が出て、たくさんの住人が避難生活をしいられ、不安な日々を過ごしました。幸いぼくの家は無事で、新聞やテレビのニュースで、大変な被害にみまわれた地域があった事を知りました。あれから2年。ここまで元通りになっていないなんて、と、ぼくは、正直ショックでした。2年間けん命に復きゆう作業を行っても、これだけ岩だらけという事は、2年前は一体どんなにひどかったのだろうと、背中がゾクッと寒くなりました。と同時に、この大きな岩を、人間はどうやってどこに運ぶのだろうと、不思議にも思いました。そのままにしておくと、草木が生えないし、海や川に運ぶと水がせき止められたり、地形が変化したりと自然環境が壊れてしまいます。そこで、大きな岩をどうするのか父にたずねてみると、「うめたて地に利用されるんやで。」

と教えてくれました。早く全部の石が使われたらいいのに...と思いました。

あんな大きな岩達が、とつ然落ちてきて、住人の方達は、どんなに恐い思いをしたのだろう。大切な道路が寸断されてしまい、どんなに不便な思いをしたのだろう。雨が降るたび、また起こるのではと不安な日々を送っているにちがいないと思います。

最近、日本各地で、

「今までに経験した事がないほどの大雨が降るので、最大限にけいがいして下さい。」

という気象情報が流される日が、いく日あります。今まさに、自然が人間におそいかかっているのです。実際に自分の目であの大きな岩を見てしまったぼくが言えるのは、自分の身はしっかりと自分で守らなければいけないという事です。そのためには、気象情報を収集し、大雨等に備え、不用意な外出をひかえたり、自宅周辺の土砂災害等で危険な区域を調べておく事も重要だと思います。また、きん急持ち出しぶくろを用意し、避難経路を確認しておく事も、とても重要だと思います。これは、大雨や土砂災害に対する対策だけでなく、ぼくが住む白浜町が、いずれ経験するであろう地震による津波対策にも、通じる場所です。

自然の猛いの前では、人間は悲しいほどに無力である事を思い知りました。だからこそ、自然に負けないように一人一人の大切な命を守り、壊された日常を取り戻すよう力を合わせて、前進していかなければならないと思います。